



トヨタは、「トータルクリーン」をめざしています。

「トータルクリーン」を基本理念に、環境に配慮したクルマづくりを進めています。生産から廃棄にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携させ、クリーンなクルマづくりをめざします。さまざまな環境目標を、バランスを取りながら達成し、総合的に環境性能の向上を図ります。

*1. Eco-VAS[エコバス]:Eco-Vehicle Assessment System。車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃棄にいたるLCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方を踏まえた環境目標値を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システムです。



プリウスのDNAを受け継いだ、世界トップレベルの環境性能。

「低燃費」「低排出ガス」の基準を高レベルで達成。

プリウスαは、「2020年度燃費基準+40%達成車*2」および「平成17年基準排出ガス75%低減レベル」の認定を国土交通省より取得しています。

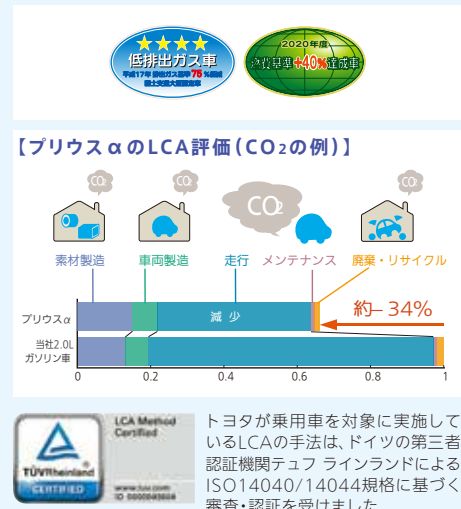
全ライフサイクルでのCO₂排出量を低減。

プリウスαは、素材製造、車両製造、走行、メンテナンス、廃棄・リサイクルの各段階で排出するCO₂を、当社2.0Lガソリン車に比べて大幅に低減。なかでも、全体の約55%~80%*3を占める走行時のCO₂排出量は、ハイブリッドシステムの採用により、約-34%を達成しています。

VOC*4の低減を推進。

内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンなどの揮発性有機化合物(VOC)の発生量を抑制。車室内の臭いや刺激臭を軽減するとともに、厚生労働省が定めている「室内濃度指針値」を下回るレベルとし、業界自主目標を達成。車室内空気質の快適性に配慮しています。

*2. 省エネ法に基づき定められている燃費目標基準。 *3. トヨタの取り組み範囲において、資源採取から廃棄・リサイクルまでの各段階で、クルマが環境に与える要因を定量化し、総合評価する手法(LCA『ライフサイクルアセスメント』:Life Cycle Assessment)で評価しました。自動車の生涯走行距離10万km(10年)をJC08モードで走行した場合の結果です。LCA評価結果は指数で示しています。 *4. VOC:Volatile Organic Compounds



トヨタ プリウスα 環境仕様

車両型式		DAA-ZVW40W	DAA-ZVW41W	
車両仕様	エンジン	型式	2ZR-FXE	
		総排気量	1.797	
		燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	駆動装置	駆動方式	前輪駆動	
	変速機	電気式無段変速機		
燃料消費率	JC08モード	*1(国土交通省審査値)	26.2	
		CO ₂ 排出量	89	
		参考	「2020年度燃費基準*2」を、クリアしています。	
		主要燃費改善対策	ハイブリッドシステム、アイドリングストップ装置、電気式無段変速機、可変バルブタイミング、電動パワーステアリング	
排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)		SU-LEV *3*4	
	認定レベル値または適合規制値(g/km)	CO	1.15	
		NMHC *5	0.013	
		NOx	0.013	
環境情報	車外騒音(加速/定常/近接)	dB	74/70/80	
	冷媒の種類(GWP値*6)/使用量	g	HFC-134a(1,430*7)/470	
	環境負荷物質削減	鉛		自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下*8)
		水銀		自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止*9)
		カドミウム		自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)
六価クロム			自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)	
車室内VOC			自工会自主目標達成	
リサイクル関係	リサイクルし易い材料を使用した部品	TSOP *10	インストルメントパネル、パンパーカバー、モールディングロッカーパネル	
	樹脂、ゴム部品への材料表示		あり	
	リサイクル材の使用	再生フェルト	ダッシュインナサイレンサー、デッキサイドトリム	

*1. 燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。
 *2. 省エネ法に基づき定められている燃費目標基準。
 *3. JC08モード走行
 *4. 平成17年基準排出ガス75%低減レベル
 *5. NMHC:Non Methane Hydrocarbons(非メタン炭化水素)
 *6. GWP:Global Warming Potential(地球温暖化係数)
 *7. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められております。
 *8. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。
 *9. 交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージランプ、室内蛍光灯)を除く。
 *10. TSOP:Toyota Super Olefin Polymer